

血管外科の外来診療あるいは入院診療を受けられた患者様へ
「血管外科診療記録を利用したデータベースの後ろ向き解析」
研究への協力をお願い

血管外科では様々な成因而起こる閉塞性動脈硬化症やバージャー病、血管炎などの閉塞性動脈疾患、大動脈瘤や末梢動脈瘤などの拡張性疾患、下肢静脈瘤や深部静脈血栓症などの静脈疾患、先天性血管疾患、急性動脈閉塞や動脈瘤破裂などの緊急疾患と多岐にわたる疾患の治療を行うとともに、これらの治療成績の向上（手術成績の向上、手術後合併症の回避、生存率・開存率の向上）や各種血管疾患の早期発見、予防などを目指した診療を行っています。これらの診療には諸外国および日本におけるさまざまな大規模試験の結果を踏まえての診療を行っておりますが、今なお解決されていない問題も多く残っているのが現状です。

このような問題を解決するためには、前向き研究（研究目的が決定したのちに患者さんをいくつかの群に振り分けさせていただき、その経過を追わせていただく研究）が重要ですが、その基盤として後ろ向き研究（今までの臨床データを解析して、治療成績や患者さんの自然経過を見させていただく研究）も非常に重要です。

それゆえ、当科では東大病院血管外科を受診された患者さんの以前のデータを解析致します。対象となるデータは、診療録（問診や診察所見など）、投薬内容、疾患名、処置内容（手術記録、病理検査など）、検査結果（血液検査、尿検査、便検査など）、生理検査（心電図、肺機能検査、血管機能検査、心エコー検査、血管エコー検査など）、放射線検査（X線検査、CT検査、MRI検査、血管撮影検査、PET検査など）など各種血管疾患に対して日常診療で行われるデータです。

この研究は過去の診療記録を用いて行われますので、該当する方の現在・未来の診療内容には全く影響を与えませんし、不利益を受けることもありません。解析にあたっては、個人情報には匿名化させていただき、その保護には十分に配慮いたします。当然ながら、学会や論文などによる結果発表に際しては個人の特定が可能な情報はすべて削減されます。

この研究に関して不明な点がある場合、あるいはデータの使用に同意されない場合には以下にご連絡頂きたいと思っております。なお、本研究は当院の倫理委員会の承認を得ております。またこの研究への参加をお断りになった場合にも将来的に当科における診療・治療の面で不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

2017年5月16日

連絡先 東京大学医学部附属病院・血管外科 渡邊聡明
保科克行
電話:03-5800-8653 血管外科医局